

第26回 兵庫便教会 報告

ゴールデンウィークの最終日の5月6日（日）芦屋市立朝日ヶ丘小学校で第26回兵庫便教会を開催いたしました。今回は日程を決めていたのですが会場が決まりませんでした。流会の案内を出さないといけないと思いつつ、なぜか出せずに2日前になっていました。そんな時にR先生から便教会参加のメールが来ました。事情を説明して、2名でR先生の学校の掃除をさせてもらえないかと返信しました。すると次の日、校長先生の許可を得たので会場として使ってくださいとの連絡。なんともありがたいことでした。1日前の案内にも関わらず3名が参加表明をしてくれて、第26回兵庫便教会は5名で行うことができました。



以下のような感想がありました。「少ない人数で多くの便器を掃除したが、一つひとつを丁寧に磨くことを心がけた。先日の大阪便教会で教えてもらった目をつむって磨いてみたら、綺麗になっており驚いた。」「定年を迎え、学校から離れた立場になって初めての便教会。おしっこができることは健康なこと。だから便器が汚れるのは当たり前であり、あり

がたいことだと思った。今日は気になる箇所を最後まで磨かせてもらったが、学校現場ではどこかで打ち切らないといけない。ほったらかしにしたままで定年を迎えたのかも知れない。」「掃除をしながら思いを巡らせることができた。凡事徹底という学級目標を掲げて、子どもたちと一緒に掃除にも取り組んでいるが、自分ができているかが気になった。」「無心になれた時間だった。日々の生活の中で無心になれる時間がないことが苦しい。」

「続ける」ことができました。今回中止にすれば、またいつか中止にすることになるでしょう。「何が何でも続けるべきだ」と言いたいわけではありません。しかし、安易に中止を決定する自分になるのが怖いのです。人のご縁を感じた便教会でした。ありがとうございます。

（文責 木田 重果）

